

## 燦々便り 124

## テニス🎾と私(1)

私がテニスを始めたのは 中学1年生の時、部活でのスタートでした。  
入学してすぐ、どこに入部するか決めるように言われ、体験入部を経て、テニス部に入った  
わけです。なぜテニスだったかと言うとその時教室は3階にあり、そこからちょうど真下に  
テニスコートが2面、とても綺麗に輝いて見えたからかもしれません。

今から考えますと、変な学校でした。テニスコートのすぐ横の学校の敷地内と思えるような場所に住んで  
いるおじさんが、いつもコート整備をされていて、だから綺麗だったのです。

しかもそのおじさんはこのコートで、テニスクラブの世話もしていたのです。

あくまで学校優先でしたから、私達も自然に受け入れていました。

先生は殆ど関わる事なく、そのおじさんの世話に自然となっていました。

他にも変な事がありました。いつもいつも必ず校庭のどこかにいて、1日中校庭のすべての草木の手入れを  
している先生がいたのです。そんなですから先生と知るには時間がかかりました。校庭の手入れに忙しく、  
授業はとても少なかったのではないのでしょうか。私は6年間の在学中1年だけ習いました。

たった一人で、広い校庭をいつも美しく保っておられました。日焼けして、いつも作業着で、草刈機なんて  
ない時代でしたから年に1回か2回草むしりに全校生徒駆り出されます。

黒柳徹子さんのトットちゃんを読んだ時、学校の雰囲気が似ているような気がしました。

余談ですが、この学校の院長先生(女学院ですから)のあだ名は大風呂敷でした。

校風と言えば、自由をモットーとしていましたから、部活も入っても入らなくても誰も気にしない。コー  
トのおじさんも、庭の手入れをしている先生も、やりたい事をただやっている。

学校も形式的に部活を応援しているだけかもしれません。でも頑張っている部もありました。

みんな、好きにしたら!!って感じです。

中学1年生といっても本当に子供でした。

何の疑問も持っていなかったのですから

そんな雰囲気が合っていたのでしょうか、私の部活が始まります。次回お楽しみに！

## 能勢杯

皆さんのおかげで、今年もスタートします。

いつまで出来るか、ギリギリまで考えました。

能勢杯の出会いを喜んでいただいている人がいる限り、出来るまで、していきます。

ローカルテニス🎾の楽しみ、伝えていければ幸いです。

新しく参加しようとおもっている方、募集しています。

遅くなりましたが、今年もよろしくお願いします🙏

